

(アカマツ林の手入れと薪割体験)

環境アドバイザー

足立 圭子

対象 ふじみ野こどもエコクラブ (21 人)

所要時間



2 時間

場所 所沢市北岩岡おおたかの森の再生地

実施時期

令和 3 年 1 月 10 日

概要

10 年前、産業廃棄物の処理場だった場所にビオトープ手法で樹木と草地、水辺をつくり「森の再生地」と名付けた場所で活動をしました。
植えた樹木の種類も多く、特にこの地域ではほとんど姿を消しかけているアカマツが大きく育っていますが、マツノマダラカミキリの被害で枯れたアカマツは、感染防止のために切って燃料に活用するため薪割をします。

プログラムの
ねらい

枯れたアカマツを探しますが、葉をよく調べないと枯れていない松を切ってしまう可能性があります。枯れた松を見つけたら、ノコギリを使い、切り倒す方向を決め、メンバーと協力しながら伐ります。枝を切り払い、細い枝も丁寧に切り取ります。太い幹は 30 センチほどに玉切りしてから、マサカリで割り始めます。

プログラムの内容

1 (10分)

場所の歴史と説明

2 アカマツの見分け方 (10分)

アカマツの見分け方と枯れている木を探す

3 枯れたアカマツをノコギリで伐りと薪割

伐る方向を決め、安全に倒せる伐り方を図で説明。

各自分担してノコギリで作業を開始

切り倒したら枝を切り離す。伐った幹を 30cm に

玉切りする。枝も短く切り、全て燃料に使う。

玉切りした幹を鉞で割る。ケガの無いように指導する。

アカマツを割った薪がストックしてあったので、

石焼き芋の燃料に使い、ホカホカの焼き芋を食べた。



受講者の反応

枯れたアカマツを探すのが難しかった。ノコギリはなかなか切れずに大変だったけれど楽しかった。初めはノコギリの使い方が分からなくて困りましたが、上手に切れるようになってよかった。薪割は思ったよりも重くてなかなか割れなかった。鉞は重かったけれども、慣れたら割れるようになった。薪で焼いた石焼き芋はとても美味しかった。